



■ 聖路加看護学会ニュースレター *new!*

第18号 平成17年11月15日

[過去のニュースレター](#)

■ 目次

第10回聖路加看護学会学術大会を終えて	小澤道子
第10回聖路加看護学会学術大会を振り返って プログラム	横山美樹
座長・司会者のメモから 大会参加者からのメッセージ	
第10回聖路加看護学会総会の焦点	亀井智子
第11回聖路加看護学会学術大会に向けて	木下幸代
理事長挨拶	田代 順子
お知らせ	
編集後記	ニュースレター委員会

[▲ ページトップへ](#)

■ 内容

第10回聖路加看護学会学術大会を終えて

第10回学術大会会長 小澤道子（聖路加看護大学）

第10回目の大会のメインテーマは、時間の流れと質的な変化を大切にしたいと考え「生涯発達と看護」とし、これまでの過去を受けながら、今どこにいて、これからどのようにすすむかを参加される個人も学会という組織も考える「時」と「場」でありたいと望みました。

会長の務めとして「生涯発達と楽しみ経験」の題で、ここ数十年興味を持って取り組んできたお話をさせていただきました。午後の特別講演は、日野原重明先生から「聖路加看護学会への期待」として、若い方々の背中を「go」とドライブできる学会、そして、サイエンスは人間を外から見るが、人間の内側から外を見る見えにくいスピリチュアリティに関する人間のQOLやケアを追究することを強調され、本学会の羅針盤が示されました。

シンポジウムは、「生涯にわたる看護職業人の発達」と題して、20歳代から各年代を代表する4人のシンポジストと2人の司会者、そして会衆者の私も、明瞭に「今与えられたことを大事にする」「今ここに最善を尽くす」ことが私の糸であり、ユニークな織物に織りあがる楽しみにつながることを知らされましたが、皆様いかがでしたか。

今回の試みとして、人は、心を開き、誰かに理解されたと感じた時「よしがんばろう」と力を得たり、解決出来にくい不可能なことへも立ち向かう力を与えられるような生き生きとした交流(出会い)の場としての学会でありたいと、ラファエロのアテネの学堂に倣い聖路加看護学会と密な関係にある7つが一堂に集まる企画交流広場を設けました。

学会は、意見の一致よりも意外性を尊び、看護者であり、生活者であり、思想者である人々が生命を大事にし、生き生きと交流できる場でありたいと思います。

私事ながら、このたびは思いがけず病にかかり、この意外性を受け入れる困難な中、学会事務局の基礎看護学のメンバーは、私を支え、感謝の言葉も捜せない思いです。

なお、本学会の運営のスムーズさは、企画委員の方々、これまでの本学会会長が構成して下さった拡大企画委員の方々、

実行委員の方々、演題とポスターを出して下さった会員の方々、そして当日お集まり下さり、盛り上げて下さった参加者の方々の賜物です。心から感謝申し上げます。

第11回は、2006年9月23日に木下幸代会長のもとで企画されますので、自由で生き生きとした交流の場を楽しみにしたいと思います。

▲ ページトップへ

第10回聖路加看護学会学術大会を振り返って

事務局 横山美樹

2005年9月24日(土)、聖路加看護大学において「生涯発達と看護」をメインテーマに第10回聖路加看護学会が開催されました。当日はあいにくの雨模様でしたが、参加者数は総数267名(うち学会員178名、非学会員89名)と多くの方にご参加いただきました。

小澤道子大会長の会長講演「生涯発達と「楽しみ経験」」は、これまでの長年の研究の成果を示されながら、人にとって「たのしい」と感じることの意義と、それが生涯発達のにも意味をもち、さらに人の健康やQOLに関わる指標にもなりうることを示されました。

午後の日野原重明先生の特別講演は「聖路加看護学会への期待」と題し、10年目と節目を迎えた本学会に対して、相変わらずのお年を感じさせない先生のパワフルなメッセージをいただきました。

シンポジウムは、「生涯にわたる看護職業人の発達」をテーマに、聖路加看護大学4年生の江澤綾さん、聖路加看護大学博士後期課程、聖路加国際病院ナースマネジャーの高井今日子さん、松原病院CNSの深沢裕子さん、埼玉県立大学副学長の渡部尚子さんという、職業人としてさまざまな段階にある4人のシンポジストの方にご自分史を語っていただき、参加者の皆さんも共に考えられる時を共有できたのではないかと思います。

本大会は第10回と節目となることもあり、大会長の小澤先生のアイデアで「企画交流広場」と題し、本学会と密な関係のある8団体(聖路加看護大学、図書館、看護実践開発研究センター、21世紀COEプログラム、WHOプライマリヘルス看護開発協力センター、聖路加国際病院、聖路加同窓会、聖路加看護学会)が集い「これまで・今・そして」というテーマでプレゼンテーションを行い、また参加者との自由な交流をもちました。改めて本学会にとって多くの人々の協力、また関係性が欠かせないことを実感いたしました。

一般演題も口演19題、示説16題、事例検討2題と非常に多くエントリーしていただき、各会場とも本学会ならではのアットホームな雰囲気の中、熱心な意見交換、ディスカッションの場面もみられました。

最後に、本学会は、企画委員11名、実行委員24名、ボランティア25名という多くのスタッフによって運営されました。これらの方々や演題を出して下さった皆様、そして参加して下さいました皆様すべてに心からお礼申し上げます。ありがとうございました。(聖路加看護大学 基礎看護学)

▲ ページトップへ

プログラム

日 時 : 2005年9月24日(土) 9:00~17:15
 会 場 : 聖路加看護大学
 大 会 長 : 小澤 道子(聖路加看護大学)
 テ ー マ : 生涯発達と看護

会長講演

アリス C.セントジョン メモリアルホール 9:10~9:50

生涯発達と「楽しみ経験」
 会長 小澤 道子(聖路加看護大学)
 座長 木下 幸代(聖隷クリストファー大学)

口演

【第1群】第I会場 研究発表・実践報告(301講義室) 10:00~10:45

座長 小松 美穂子(茨城県立医療大学)

1. 女子学生のリプロダクティブヘルス第1報 月経と食生活
 ○ 田島 悦子 (聖徳大学附属中学校・高等学校)

片平 敬子 (聖徳大学保健センター)
 野田 洋子 (岐阜大学医学部看護学科)
 深谷 いづみ (青山学院女子短期大学)
 桂 きみよ (聖徳大学)
 前澤 高子 (聖徳大学保健センター)

2. 妊娠期におけるドメスティック・バイオレンスの実態
 ○ 片岡 弥恵子 (聖路加看護大学看護実践開発研究センター)
3. 当院における多胎妊婦のための「マルチキッズクラス」のあゆみ[実践報告]
 ○ 川元 美里 (聖路加国際病院)
 小川 さゆり (聖路加国際病院)
 金子 美紀 (聖路加国際病院)
 鈴木 智恵子 (聖路加国際病院)
 高梨 友紀子 (聖路加国際病院)
 深山 香代子 (聖路加国際病院)
 井上 玲子 (医療法人財団仁寿会 荘病院)
 桃井 雅子 (聖路加看護大学)

【第2群】第I会場 研究発表・実践報告(301講義室) 11:00~12:00

座長 角濱 春美(青森県立保健大学)

4. 水中歩行と疾病予防効率
 ○ 関 美奈子 (国際医療福祉大学大学院博士課程)
5. 日常生活援助場面における患者に「触れる」と「触れない」看護行為
 ○ 木村 佳枝 (済生会平塚病院)
6. 身体侵襲を伴う看護技術演習の取り組み[実践報告]
 —静脈内採血法と皮下注射法演習の体制作りと倫理的配慮—
 ○ 水戸 優子 (神奈川県立保健福祉大学)
 牧野 美幸 (神奈川県立保健福祉大学)
7. シリンジラベルの開発と運用の実際 —そしてシリンジ取り違えがなくなった—[実践報告]
 ○ 屋良 千鶴子 (聖路加国際病院手術室)

【第3群】第I会場 研究発表・実践報告(301講義室) 13:00~13:45

座長 鈴木 恵理子(聖隷クリストファー大学)

8. 看護基礎教育におけるコンピュータ利用教育の現状
 —コンピュータ利用教育の変遷と学習理論—
 ○ 島田 智織 (茨城県立医療大学看護学科)
 小松 美穂子 (茨城県立医療大学看護学科)
9. 科目等履修生に対するe-learningクラスの実施と評価
 —パイロットスタディー「EBNを臨床でどう展開するか？」—
 ○ 小陽 美紀 (聖路加看護大学)
 堀内 成子 (聖路加看護大学)
 八重 ゆかり (東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻
 疫学・予防保健学分野 後期博士課程)
10. 看護技術教材としてのe-learning導入の試み[実践報告]
 ○ 佐居 由美 (聖路加看護大学)
 豊増 佳子 (University of Texas Health Science Center at Houston)
 中山 和弘 (聖路加看護大学)
 塚本 紀子 (聖路加看護大学)
 小澤 道子 (聖路加看護大学)
 香春 知永 (聖路加看護大学)
 横山 美樹 (聖路加看護大学)
 山崎 好美 (聖路加看護大学)

【第4群】第II会場 研究発表(302講義室) 10:00~10:45

座長 麻原 きよみ(聖路加看護大学)

11. 小学生に対する排泄教育について[実践報告]
 ○ 谷口 珠実 (聖路加看護大学大学院博士後期課程、日本コンチネンズ協会)
12. 子どもが自分のからだを学べる教材の開発
 ○ 菱沼 典子 (聖路加看護大学)
 松谷 美和子(聖路加看護大学)
 田代 順子 (聖路加看護大学)
 横山 美樹 (聖路加看護大学)
 中山 久子 (聖路加看護大学)
 佐居 由美 (聖路加看護大学)
 山崎 好美 (聖路加看護大学)
13. 看護大学が市民に開いている健康相談からみた市民の健康問題と看護職の対応

- 徳間 美紀 (聖路加看護大学看護実践開発研究センター)
- 菱沼 典子 (聖路加看護大学)
- 川越 博美 (聖路加看護大学)
- 高橋 恵子 (聖路加看護大学)
- 松本 直子 (聖路加看護大学)
- 石川 道子 (聖路加看護大学看護実践開発研究センター)
- 新幡 智子 (聖路加看護大学大学院)

【第5群】第Ⅱ会場 研究発表・実践報告(302講義室) 11:00～11:45

座長 福田 紀子(横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター)

- 14. 急性期高齢患者のせん妄に関する看護アセスメントの構造
 - 長谷川 真澄 (聖路加看護大学大学院博士後期課程)
- 15. 看護学生における『べき思考』傾向が精神的健康に及ぼす影響
 - 中山 久子 (聖路加看護大学)
- 16. 総合健診におけるメンタルチェックの実際[実践報告]
 - 柳橋 礼子 (聖路加国際病院附属クリニック・予防医療センター)
 - 紺井 理和 (聖路加国際病院附属クリニック・予防医療センター)

【第6群】第Ⅱ会場 研究発表(302講義室) 13:00～13:45

座長 吉川 久美子(聖路加国際病院)

- 17. 直腸肛門障害のある子どもをもつ親の困難
 - 西田 みゆき (順天堂大学医療看護学部)
- 18. 広汎性発達障害をもつ子どもを育てていく母親の体験
 - ー乳幼児期に焦点を当てた事例の検討ー
 - 今井 沙恵美 (山梨県立看護大学大学院看護学研究科)
 - 千田 みゆき (山梨県立看護大学大学院)
- 19. 重度の脳障害をもつ子どもと看護師とのコミュニケーションの営み
 - ー子どもの『反応がないという反応』に焦点を当ててー
 - 亀田 直子 (大阪府立急性期・総合医療センター)
 - 山中 久美子 (大阪府立大学看護学部)

示 説

掲示 9:00～15:00

【第7群】第Ⅳ会場 研究発表(403講義室) 10:00～11:00

座長 荒賀 直子(順天堂大学)

- 20. リンパ浮腫患者へのケア ー患肢の挙上の実践状況ー
 - 木村 恵美子 (青森県立保健大学)
- 21. 在宅酸素療法実施者の長期療養管理を目的とした遠隔看護支援システムの開発と効果
 - 亀井 智子 (聖路加看護大学)
- 22. 患者の示す健康価値と若干の考察
 - 飯田 加奈恵 (杏林大学)
- 23. ナイチンゲール40歳の著述にみる「Nursing」という言葉の背景
 - 「Notes on Nursing」と「Suggestions for Thought」
 - 助川 尚子 (聖路加看護大学)
 - 小澤 道子 (聖路加看護大学)
 - 香春 知永 (聖路加看護大学)
 - 横山 美樹 (聖路加看護大学)
 - 佐居 由美 (聖路加看護大学)

【第8群】第Ⅳ会場 研究発表(403講義室) 11:00～11:45

座長 齋藤 泰子(群馬大学)

- 24. 沖縄県離島における子育て支援の現状と食育支援に関する一考察
 - 桑島 麻未 (城東保健相談所)
 - 河原 加代子 (首都大学東京)
- 25. 地域保健と産業保健の「連携」の現状と課題 ー文献検討からー
 - 寺山 奈見 (あきる野市福祉部健康課健康づくり係)
 - 中島 由紀子 (中野区鷺宮保健福祉センター)
 - 杉本 正子 (東邦大学医学部看護学科)
- 26. A保育所における核家族世帯の育児機能 ー父親と母親の比較ー
 - 仲村 秀子 (聖隷クリストファー大学)
 - 藤生 君江 (岐阜医療技術短期大学)

中野 照代 (聖隷クリストファー大学)
荒木田 美香子(大阪大学)

【第9群】第Ⅳ会場 研究発表・実践報告(403講義室) 13:00～13:45

座長 数間 恵子(東京大学)

27. 臨床でがん看護研究に取り組む看護師が体験している困難
○ 酒井 禎子 (新潟県立看護大学)
28. IVR看護研究会の活動報告 -5年間のあゆみ-[実践報告]
○ 黒田 正子 (聖路加国際病院)
高橋 恵子 (聖路加看護大学)
野口 純子 (東京医科大学病院)
今井 祐子 (静岡県立静岡がんセンター)
浅井 望美 (国立がんセンター中央病院)
関口 和子 (東京医科歯科大学医学部付属病院)

【第10群】第Ⅳ会場 研究発表(403講義室) 10:00～10:45

座長 武内 和子(川崎市立看護短期大学)

30. 看護学生にみる死生観とそれに関与する経験
○ 阪口 陽子(聖路加国際病院)
31. 「もし自分だったら…」は「相手の立場に立つ」ことか否か
○ 林 智子 (群馬大学医学部保健学科)
32. 初学者に対する対象理解の視点の提案 -ヘンダーソン看護論を基盤にして-
○ 野崎 真奈美(東邦大学医学部看護学科)
鈴木 琴子 (東京学芸大学教育学部 芸術・スポーツ科学系養護教育講座)

【第11群】第Ⅳ会場 研究発表・実践報告(403講義室) 11:00～11:45

座長 添田 啓子(埼玉県立大学)

33. ドレifahスの技能獲得モデルの第1・第2段階の構成要素にみる
基礎看護実習後の達成困難な援助技術項目
○ 牧野 美幸 (神奈川県立保健福祉大学)
34. HIV感染予防教育プログラム開発のためのIBL(Inquiry Based Learning)のプロセス[実践報告]
○ 塚本 紀子 (聖路加看護大学)
松谷 美和子 (聖路加看護大学)
35. 小児看護学実習の日程の違いによる学生の実習に対する意識への影響[実践報告]
○ 多田 敦子 (自治医科大学看護学部)
朝野 春美 (自治医科大学看護学部)
川口 千鶴 (自治医科大学看護学部)

【事例検討1】第Ⅴ会場 (404講義室) 10:00～10:50 進行:杉本 正子(東邦大学)

36. 在宅とPCUとの連携事例
○ 松浦 志野((有)ケアーズ 白十字訪問看護ステーション)
秋山 正子((有)ケアーズ 白十字訪問看護ステーション)

【事例検討2】第Ⅴ会場 (404講義室) 11:00～11:50 進行:鈴木 久美(聖路加看護大学)

37. 妻の望みは患者にとって有益か?倫理的ジレンマに直面した一例
○ 村田 涼子 (聖路加国際病院)
中村 めぐみ (聖路加国際病院)

【企画交流広場】第Ⅲ会場(402講義室) 13:00～14:00 (広場:9:00-15:00)

<これまで・今・そして>

聖路加看護学会と密な関係にある次の8つが一堂に集まり、「今」の活動を中心に紹介する自由な情報交流の広場です。13:00から14:00は、演題番号38～41について担当者が紹介します。お楽しみに。

聖路加看護大学 図書館 看護実践開発研究センター 21世紀COEプログラム
WHOプライマリヘルスケア看護開発協力センター 聖路加国際病院 聖路加同窓会
聖路加看護学会

38. 聖路加看護大学看護実践開発研究センター
39. 聖路加看護大学 21世紀COEプログラム
40. WHOプライマリヘルスケア看護開発協力センター
41. 聖路加国際病院

特別講演

アリス C.セントジョン メモリアルホール 14:10～15:00

「聖路加看護学会への期待」

講師 日野原 重明(聖路加看護大学・聖路加国際病院理事長)
座長 小澤 道子(聖路加看護大学)

シンポジウム

アリス C.セントジョン メモリアルホール 15:15～17:15

「生涯にわたる看護職業人の発達」

司会 鶴田 恵子(日本赤十字看護大学)
森田 夏実(慶應義塾大学)

看護職業人としての発達を、個人の糸と環境の糸との織物にたとえ、自らの糸の発見と、新しいつむぎ糸との出会い、そしてユニークは未来の織物を描き出せる「時」と「場」でありたい。

シンポジスト

看護職業人のスタート地点にいる学部生として

江澤 綾(聖路加看護大学4年生)

ナースマネージャーと博士生として

高井今日子(聖路加看護大学大学院博士課程・聖路加国際病院)

CNSとして

深沢裕子(松原病院)

教育する立場として

渡部尚子(埼玉県立大学副学長)

理事長挨拶

菱沼 典子

アリス C.セントジョン メモリアルホール 9:00～9:05

総会

アリス C.セントジョン メモリアルホール 12:10～12:50

[▲ ページトップへ](#)

● 座長・司会者のメモから

<第 I 会場(第1群)>

■女性の健康、妊産婦のケアがテーマでした。1題は女子大生の食生活と月経との関連に焦点をあて、食品摂取量と栄養素充足率から月経との関連をみたもの、他の2題は妊娠期のドメスティック・バイオレンスの実態についてスクーリングし、さらに背景因子と精神的健康への影響を探ったものと多胎妊婦と家族への母親学級のあゆみについての報告であった。3題とも社会変化、医療の進歩によって生じてきた新しいニーズ・健康問題への取り組みであり、さらなる研究・実践の発展が期待される。フロアーからの発言がもう少し多いとよかったですと思います。

(小松美穂子)

<第 I 会場(第3群)>

■第3群は看護教育におけるコンピュータ利用に関する3題の演題が発表されました。1題は看護基礎教育で開発されたコンテンツを教育方法によって分類したもの。また1題は看護技術の講義・デモンストレーションの補助教材としてe-learningを導入した実践報告、もう1題は科目等履修生が受講しやすくなる一方法としてのe-learningのテスト的導入結果の報告と、いずれも今後看護教育にe-learningを導入するにあたって参考となる発表でした。会場からも、e-learningを導入するにあたっての実際的な問題点などについて質問があり、今後関心が高まるであろうと期待させられました。

<第Ⅱ会場(第4群)>

■1題は、小学生に対する排泄教育の実施、評価および今後の課題に関する実践報告であり、2題は、子どもが自分の身体を学ぶことができる教材の開発過程とその成果に関する研究、および看護大学が市民向けに開設している健康相談の内容とその検討に関する研究発表でした。子どもに対するからだの健康教育・学習には、とりわけ子どもの発達段階を考慮した工夫が必要であり、親や養護教諭、教師や学校長への配慮と連携が重要であることが示されました。また、看護実践者および研究者による健康教育プログラムや教材開発の必要性と期待がセッション参加者間で共有されたと感じました。健康相談の発表では、今後どのような方向で実施していくのかビジョンを持つことの必要性と今後の発展が期待されました。

(麻原きよみ)

<第Ⅱ会場(第6群)>

■第6群は、小児の領域に関する演題で、1題は「直腸障害のある子どもをもつ親の困難について」カテゴリーを抽出し、今後の看護介入およびその効果についての評価につながる研究、1題は「広汎性発達障害を持つ子どもを育てていく母親の体験」を分析し、支援のあり方を検討したもの、1題は「重度の脳障害を持つ子どもと看護師のコミュニケーションの営み—子供の「反応がないという反応」—」に焦点をあて、分析したものの3題が報告された。臨床実践に非常にかかわりのある演題であり、臨床現場の看護師にとっては関心の高い内容であった。研究方法に関する質問などが多くあったが、参加者に臨床で働く看護師が少なかったのが残念だった。

(吉川久美子)

<第Ⅳ会場(第7群)>

■4演題とも研究の過程を端的にまとめ、今後の研究の発展が期待されるものでした。Spiritualな部分に触れる壮大な研究もあり、私自身が目を開かされる思いでした。多くの人たちの参加があり、質疑応答も活発に行われ、発表者にとっても研究の視点が広がったのではないのでしょうか。

(荒賀直子)

<第Ⅳ会場(第8群)>

■第7群のポスターセッションの熱気そのまま8群に入りました。比較的若い方の真摯な研究発表(離島における食育、産業保健と地域保健の連携、育児機能の3題)に、経験者からの質問が出て、意見交換・交流がもてました。有意義なセッションでした。

(齋藤泰子)

<第Ⅳ会場(第9群)>

■この群では当初予定の3題のうち、2題が報告されました。1題は「臨床でがん看護研究に取り組む看護師が体験している困難」、もう1題は「IVR看護研究会の活動報告—5年間のあゆみ—」で、現場の看護職の研究能力を向上させる、あるいはIVRという非常に専門性の高い分野での看護実践の質を向上させることにつながるものでした。これらの発表と参加された方々とのディスカッションの様子から、臨床看護の質がこのようにして確保・向上されていくことに期待の持てるセッションとなったと思います。

(数間恵子)

<第Ⅳ会場(第10群)>

■第10群は看護の中で日常的に使われている言葉・考え方についての研究発表3席でした。身近な概念の連続だけに、ご聴講いただく方々の目が真剣そのもの、驚きそのもの。こんなことを見過ごしていたのかという反応が感じ取られました。思わず引き寄せられる、それぞれ看護の基盤となるテーマだけに、今後の発展を心から期待しています。

(武内和子)

<第Ⅳ会場(第11群)>

■11群は、教育の工夫についての演題でした。内容が基礎技術、エイズ教育、小児看護実習と異なっていたため、会場の方はかなり入れ替わっていました。学生が学びを得るための教育的努力を地道にしていってほしいことがわかる発表でした。質問者の質問内容からも、地道な努力が伝わってきました。また次の教育的な努力をする力を得たと思います。

(添田啓子)

<第Ⅴ会場(事例検討2)>

■事例検討2では、臨床ではよく直面する倫理的ジレンマに関するテーマで討議した。忙しい臨床では、一事例をじっくり振り返ることが少ないが、この事例検討を通して、ケアの視点の広がりが見え、有意義な時間をもつことができたと思う。

(鈴木久美)

<第Ⅲ会場(企画交流広場)>

本学会10年目の学術大会を記念して、聖路加看護学会と密接な関係にある8つの組織が一堂に会し、展示と発表を行った。聖路加看護大学、図書館、看護実践開発研究センター、21世紀COEプログラム、WHOプライマリヘルスケア看護開発協力センター、聖路加国際病院、聖路加同窓会、聖路加看護学会のそれぞれが、大会のテーマ「これまで・今・そして」の「今」を中心に据えた展示と発表を行った。多くの参加者が会場を訪れ、展示に見入り、資料を手にとり、口頭発表に耳を傾けて聖路加の今を表す活動に関心を寄せていた。聖路加のさまざまな営みから研究成果が生まれ、再び実践に活かされていることを実感できた意味深い場であった。

(松谷美和子)

<シンポジウム>

シンポジウム「生涯にわたる看護職業人の発達」では、学部4年江澤綾氏、ナースマネージャ&博士生高井今日子氏、精神CNS深沢祐子氏、埼玉県立大学副学長渡部尚子氏をシンポジストとして招聘。個人的主軸となる経験と職場からの影響について、各人独自のスタイルによるプレゼンテーションがなされた。友人・家族関係等のプライベートライフの重要性が渡部氏から強調され、第3の糸として立体的な布地が織りあがった感があった。さらに、退職しても“職業人”としての発達は続いていると会場からの発言があり、キャリアの考え方が、また一つ広がった気がした。豊かな時間と空間に感謝！である。

(森田夏実)

▲ ページトップへ

● 大会参加者からのメッセージ

★初めてこの学会に参加しました。小澤先生の長年の研究からひき出されたエッセンスがぎゅっとなつたご講演、学生の時から何度も聞いてきましたが今なおとても新鮮で大きなビジョンのもとにお話して下さった日野原先生のご講演、とても充実した一日になりました。また、最後のシンポジウムでそれぞれの立場の方の現在がどうやって作られてきたのか？は、自分の今を考える良い機会になりました。13:00～の企画交流広場紹介も、それぞれの施設の事業展開がとてもよくわかりました。ありがとうございました。(東京都、45歳、S.O.)

★今回、初めて参加させていただきました。将来、養護教諭を目指す私にとってとても刺激になりました。日本中の様々な所で人々がより良い生活を健康に送るため、より良い人生を送るために、看護の力やそれにとどまらない力が発揮されているのを知ることができました。学校と社会がつながる場だと思いました。(東京都、21歳、R.D.)

★大学卒業後、初めて学会に参加しましたが、とても楽しかったです。(東京都、20歳代、Y.K)

★初めて学会に参加して、看護の様々な領域の研究や事例を聞くことができ、今後の大学の講義でどのような関心を持って学んでいくかが大切だと感じました。学生時代から学会に参加し、先生方、臨床の方の話を聞く機会はあまりないと思うので、学生もまずは行動し、参加してみるということが求められていると思いました。今日は貴重なお話をありがとうございました。(神奈川県、20歳、K.S.)

★シンポジウム「生涯にわたる看護職業人の発達」で家庭人としての両立—女性のライフサイクル(ステージ)の中での発達—の部分もふくめて、人間としての発達につながり、それを支えることで職業人としての深まり、つまりは看護ケアの質の向上につながるのではないかと思います。今後のキャリアアップや今後注目されるセカンドキャリアの登用にもつながるのではないかと期待しています。その辺も含めて、ディスカッションになればと思いました。(東京都、55歳、M.A.)

★これからがんばっていこうって思えるすてきな学会で、参加してよかったと思いました。(東京都、20歳代、S)

▲ ページトップへ

第10回聖路加看護学会総会の焦点

聖路加看護学会前理事・亀井智子(庶務担当)

2005年9月24日土曜日、聖路加看護学会第10回総会が、出席者61名、委任状提出者240名により開会されました。

今回の総会では、理事会、および各委員会報告に加え、理事・評議員の改選結果、新理事長の互選結果、学会の将来構想などの報告がありました。また、会費値上げについての審議がなされ、年会費が8000円へと値上げされることが承認されました。

選挙管理委員長 掛本氏より、理事・評議員の改選経過の説明がなされ、新たに選出された31名の評議員、7名の理事、2名の監事が公表され、新理事長には田代順子氏が就任することが承認されました。10月1日から新体制により本会は11年目のスタートをきることが決まりました。

また、2005年度に活動した将来構想検討委員会からは、本会の今後の方向性について委員会での検討経過の報告がありました。学会発足後10年が経過し、本学会は看護学の総合学会であることが確認され、看護実践を今後も重視し、看護実践の向上に貢献することが本会の使命であるとの説明がされました。今後本会は、次の4つの方針—1.上級実践家の育成と研鑽をめざす、2.市民主導型のケアを開発・発信する、3.聖路加の実践、教育を積極的に発信する、4.研究のグローバル化をめざす—を据え、今後も学術大会では事例検討を継続し、また認定看護師等の優れた実践知の発表を促進すること、専門看護師のセッションを継続すること、大会発表では英語を用いた発表も認めることなどの具体案が提示され、承認されました。尚、学会名称は「聖路加看護学会」のままとなりました。今後も学術大会の場が会員の皆様の研究発表や自己研鑽の場として大いに活用されれば幸いであると思います。

また、会費値上げの件については、2003年度から各委員会や理事会のメンバーが全国から選出された会員で構成されるようになり、諸経費がかかるようになったこと、学会誌への投稿論文数が急増し、編集経費が年度当初の予算以上に必要になったことなどの理由が説明され、3000円の値上げをさせていただき、年会費を8000円とすることが承認されました。但し、会計担当理事からは会費納入者の割合が約7割であるため、会費徴収については引き続き努力したいとの説明がされました。皆様何卒よろしくお祈りいたします。

3年の月日はあっという間に過ぎ、2003年度～2005年度の理事会は無事任を終え、新理事会へと引き継ぎました。2006～2008年度も益々本学会が社会に貢献できる学術団体として発展できるよう、ご支援をよろしくお祈りいたします。

▲ ページトップへ

第11回聖路加看護学会学術大会に向けて

木下幸代(聖隷クリストファー大学)

区切りとなる第10回の学術大会(小澤道子会長)から引き継ぎ、第11回会長をお引き受けすることになりました。大学院を修了し東京を離れて10年以上を浜松で暮らしていますが、大都会のめまぐるしい変化が遠い世界のように、田舎では時間がゆっくりと流れているように感じられます。常に厳しい競争にさらされ病気や障害をもつ人々が非常に生きにくくなっている現代社会ですが、田舎で慢性病をもつ人々と接していると、浜松という温暖な土地柄もあって、多くの人々は四季の移ろいを感じながら比較的穏やかに暮らしているような印象を受けています。

そこで、第11回学術大会は、メインテーマを「病気や障害のある生活と看護」として、慢性病や難病をもちながらもその人らしく生活するという、さらに、我々看護専門職はどのような支援ができるか、に焦点を当て、地方からの視点も含めてじっくりと見つめ直す場にしていければと考えています。

第11回学術大会の事務局は聖隷クリストファー大学となりますが、例年通り聖路加看護大学を会場として、2006年9月23日(土)開催予定です。学会員の皆様、とくに地方で活動する方々のご協力・ご支援をお願いいたします。

第11回学術大会のご案内(第1報)
 日時:2006年9月23日(土)
 会場:聖路加看護大学
 メインテーマ:「病気や障害のある生活と看護」
 演題締切:2006年5月下旬

大会事務局:〒433-8558 静岡県浜松市三方原町3453
 聖隷クリストファー大学・看護学部
 TEL:053-439-1400(代表)
 FAX:053-439-1406(大学事務)
 第11回聖路加看護学会学術大会事務局
 E-mail slnr11@seirei.ac.jp

▲ ページトップへ

理事長挨拶

聖路加看護学会は今年で、10年目を迎えました。この10年の区切りを経過した2006年度から3年間、理事長として働かせていただくことになり、ご挨拶申し上げます。

聖路加看護学会の歩みを振り返ると、1996年4月13日に設立総会が開催され発足し、第1回学術大会が、同年9月15日に故常葉恵子大会長のもと開催されました。以来、今日、2005年9月24日に第10回学術大会を小澤道子大会長のもとで開催され、回を重ねてきました。学術大会での発表演題は増え、加えて、聖路加看護学会誌も9巻を発行し、その投稿数も増加してきております。この間、本学会は設立後7年目にして(2002年)、日本学術会議に団体登録され、日本看護系学会協議会にも入会を済ませました。昨年度、日本学術会議の改革が行なわれることになり、同時に、聖路加看護学会も菱沼典子前理事長のもと将来構想検討委員会を起し、再度、学会のあり方検討を行ないました。検討の結果、学会設立の趣旨に戻り、本学会の基盤となる聖路加看護大学・大学院、そして聖路加国際病院の活動の有機的統合を図り、実践重視の看護学の発展・形成を目指す方向性の合意がなされ、この委員会の提案は総会で承認を受けました。提案には今後の本学会の方針として4項目の方針が含まれています。1)上級看護実践家の育成と研鑽を目指す。2)市民主導型のケアを開発・発信する。

3) 聖路加の実践・教育を積極的に発信する。4) 研究のグローバル化をめざす。この方針の具現として考えられるような企画が、第10回学術大会での小澤大会長が企画された「交流広場」だと考えます。この企画の趣旨は聖路加看護学会との密な関係のある聖路加看護大学、図書館、看護実践開発研究センター、21世紀COEプログラム、WHOプライマリヘルスケア看護開発協力センター、聖路加国際病院、聖路加同窓会の交流の場の提供で、交流によりそれぞれの活動がより促進されるようにとのことでした。今期3年間、会員の皆様と共に、学会での交流と聖路加看護学会関連各機関との有機的活動連携の下で、本学会の目的である、実践重視の看護学形成ないし、発展の目標に向かって、働きたいと考えています。どうぞ、宜しくお願いします。

聖路加看護大学 教授 田代 順子

▲ ページトップへ

お知らせ

★庶務より

- 聖路加看護学会の現在の会員数は623名となりました。会員の皆様、周囲の方々にも是非本学会のご入会をお勧め下さい。
- 皆様の勤務先や所属、住所などの変更がありましたら、本部事務局まで速やかにご連絡くださいますようお願い申し上げます。事務局への連絡は、郵便あるいはファクシミリでお願い致します。

(担当理事:小澤道子 鈴木久美)

★会計からのお知らせ

2006年度の活動が2005年10月1日より始まりました。

先の総会で、年会費8000円への値上げが承認されました。お振込みをどうぞよろしくお願い致します。

★2005年度までの納入がお済みでない方は、5000円のお振込みをお願い致します。

★2006年度分をすでにお振込みの方は、値上げ分の3000円のお振込みをお願い致します。

(前担当理事:中山洋子、桃井雅子)

振込み先:郵便振替口座 00100-8-670371
加入者名 聖路加看護学会
年会費 :8,000円

★新理事・監事

田代 順子	聖路加看護大学	理事長
小澤 道子	聖路加看護大学	庶務
田中 美恵子	東京女子医科大学看護学部	会計
及川 郁子	聖路加看護大学	学会誌編集委員会
木下 幸代	聖隷クリストファー大学看護学部	学会誌編集委員会
川口 千鶴	自治医科大学看護学部	ニューズレター委員会
中村 めぐみ	聖路加国際病院	学術交流委員会
小松 美穂子	茨城県立医療大学	監事
近藤 潤子	天使大学	監事

理事長指名理事:

佐藤 エキ子	聖路加国際病院	「看護系学会等社会保険連合」担当
鈴木 久美	聖路加看護大学看護実践開発研究センター	庶務
大隅 香	聖路加看護大学	会計

▲ ページトップへ

編集後記

編集後記: 本号は前委員会が編集をいたしました。次号からは、新しい委員会が担当されます。今後ともニュースレターをよろしくおねがいいたします。

(ニューズレター委員会)

[▲ ページトップへ](#)

[学会について](#) | [入会案内](#) | [お問合せ](#) | [よくある質問](#) | [学術大会](#) | [ニュースレター](#) | [学会誌](#)

St. Luke's Society for Nursing Research | [サイトマップ](#)